2026年11月20日
株式会社マイネット
（コード番号：3928）

2026年12月期 第３四半期 決算説明会 質疑応答要約

2026年11月13日に開催した2026年12月期 第３四半期 決算説明会の質疑応答要約について、下記のとおりお知らせいたします。

記

Q1：なぜこのタイミングでの業績予想の修正となったのでしょうか？

A1：スポーツコンテンツ領域の新規プロダクトにおきましては、当期２度目のシーズン開幕が８月であり、第３四半期の半ばにあたることから、開幕に合わせて各種施策の準備を進めてまいりました。一定のリスクも想定されましたが、この時期にリソースを集中投下して成果を獲得することが、事業の早期進捗につながる好機であると判断いたしました。その結果、集客面の苦戦を一定程度リカバーし、MAUは８月に最高値を記録し、９月時点の月間課金ユーザー数は１月比約1.5倍となりました。
しかしながら、今期中に予定していた対策を一巡させた結果およびその影響を踏まえ、適正な修正予想としてこのタイミングにて公表することといたしました。

Q2：スポーツコンテンツの集客が計画比の36%に留まったのは、想定と何が違ったのかをもう少し詳しく教えてください。

A2：スポーツコンテンツ領域のプロダクトは、単なるライセンス契約にとどまらず、リーグのご協力のもとで展開する公式プロダクトとして、当社としても積極的な投資により本格的な集客を図る計画でした。しかしながら、初めての共同事業であり、運用の知見を積み上げながらの推進となったことから、施策の実行や目標数値の設定、スケジュールの組み立て等の精度に改善の余地が残る結果となりました。また、当初想定していた顧客獲得単価やプロモーション手法といった数値設計に対し、実際の運用においては公式プロダクトならではの露出方法や表現への配慮が必要となり、想定通りの展開が困難となった側面がございました。

根底には、当社の計画自体の見通しの甘さがあったと認識しております。具体的な要因といたしましては、集客の立ち上がり速度の見通しが挙げられます。スマホアプリでは、数年前まで、ランキング上位に入ることで一定の成果が得られる傾向がみられました。しかしながら、本サービスをブラウザ上で展開したところ、ユーザーの関心は急激に高まるのではなく中長期的に緩やかに積み上がっていくというのが、昨今の新規プロダクトにおける集客の実態であると認識しております。したがって、当社の投資を含む各施策の効果に対する期待値が過大であったと分析しております。一方で、集客のペース自体は落ちることなく、堅調に推移しております。
つきましては、同様の試算方法に基づいた計画を来期以降に適用する予定はございません。今期において順調に推移し、計画通り成果を上げた部分については明確になっておりますので、それらの実績に沿いつつ、より保守的な視点を取り入れたうえで、来期の計画を策定してまいります。

2026年11月20日
株式会社マイネット
（コード番号：3928）

Q3：来期黒字化の具体的な根拠はあるのでしょうか？

A3：スポーツコンテンツ領域につきましては、当期、垂直立ち上げに向けて、プロダクト開発およびユーザー獲得のための広告宣伝を中心とした各種投資を期初計画どおり実施いたしました。また、多くのリソースを要する立ち上げのタイミングが２回あったことから、大型のプロモーションを実施するとともに、手厚い開発体制で推移いたしました。来期は、事業の縮小や既存ユーザーへのサービス水準の低下を伴うことなく、広告宣伝費を適正化するとともに、開発体制を速やかに適正規模へ見直してまいります。これにより、安定的に利益を創出できる体制を構築してまいります。

あわせまして、関係各所との連携をいっそう強化し、より効果的な集客施策を展開いたします。また、当社の強みである高いユーザー継続率を活かし、ユーザー基盤を着実に拡大させてまいります。これまでの赤字の大半はこうした初年度の先行投資に起因するものであり、来期は初年度と同規模の先行投資を行わず、集客の上振れを頼らずとも現行のユーザー規模で黒字化できるコスト構造とすることが、スポーツコンテンツ領域における黒字化の根拠でございます。同領域の赤字解消に、セカンダリーの安定した収益貢献と重点成長領域の収益力が加わることで、来期は連結の各段階利益で黒字化いたします。
さらに補足いたしますと、本プロダクトに従事している人員は、順を追って、リスクを過度にとることなくマルチスポーツ展開へ活用してまいります。これにより、各プロジェクトの月次コストが分散・低減される構造を構築してまいります。このように、アップサイドを創出できる体制の構築を当期中に完了させることが、当社としての取り組みでございます。

Q4：異業種領域はQ3赤字ですが、Q4以降回復するのでしょうか？

A4：異業種領域の第３四半期は小幅な営業赤字となりましたが、前年におきましても第３四半期に赤字となった後、第４四半期には黒字へ回復しております。今回の赤字の要因の１つは、組織拡大に伴う採用活動の先行投資でございます。採用した人員の稼働開始に伴い、第４四半期にはその影響が解消される見込みでございます。

より大きな要因は、BPO事業における納品時期の後ろ倒しでございます。第２四半期決算発表時には、地政学的要因に伴う部品の納品遅延を一時的な影響と捉え下期での挽回を見込んでおりましたが、その後、一部の納品がさらに2027年12月期第１四半期まで後ろ倒しとなり、その影響が継続しております。
しかしながら、当該影響を考慮いたしましても、現状の慎重な見通しに基づけば、第４四半期におきまして異業種領域全体で黒字化を見込んでおり、通期業績予想にも本計画を反映しております。

補足いたしますと、売上高につきましても順調に拡大しております。四半期ごとに利益が落ち込むことのない水準まで売上規模を安定的に拡大することは、来期中に実現可能な段階にあると認識しております。事業特性を踏まえつつ、四半期ベースでも赤字とならない体制の構築を図ってまいります。

2026年11月20日
株式会社マイネット
（コード番号：3928）

質疑応答要約は以上です。
なお、決算説明会の動画も公開しておりますので、以下のURLよりご覧ください。
https://youtu.be/JLJ3GfTw6r8

本資料において提供される情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本資料に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

【本件に関する問い合わせ先】
株式会社マイネット IR担当
お問合せフォーム：https://mynet.co.jp/ir/contact
その他のIR情報：https://mynet.co.jp/ir